

会 議 録

会 議 名	令和6年度第1回野田市総合教育会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	野田市の学校配置適正化について（公開）
日 時	令和6年5月29日（水） 午前11時から午前11時15分まで
場 所	市役所低層棟4階 委員会室
出席者氏名	委員 鈴木有（市長） 染谷篤（教育長） 伊藤稔（教育長職務代理者） 飯田芳彦（教育委員） 高橋保（教育委員） 永瀬大（教育委員） 事務局 今村繁（副市長）、牛島修二（市政推進室長）、大久保貞則（総務部長）、生嶋浩幸（教育次長兼生涯学習部長）、森功（学校教育部長）、初見龍一（行政管理課長）、大久保崇雄（教育総務課長）、安藤剛行（生涯学習部参事兼生涯学習課長）、廣居信和（学校教育課長）、間々田英示（指導課長）、今井清人（学校教育課主幹）、内海孝幸（市政推進室主幹）、蓮沼憲治（市政推進室副主幹）、岩田耕平（市政推進室副主幹）、石山完司（市政推進室主任主事）
欠席委員氏名	無し
傍 聴 者	3名
議 事	第1回野田市総合教育会議の会議結果（概要）は、次のとおりである。
市政推進室主幹	会議は原則公開、傍聴の許可、会議資料及び会議録の公表について説明した。 会議録作成のため録音機を使用することについて了承を得た。 出席者について報告した。 以後の議事進行は、野田市総合教育会議運営要項第2条に基

市 長	<p>づき、市長が議長を務めるものとされていることから、議長を市長に依頼する。</p> <p>開会を宣言する。</p> <p>3名から傍聴の希望があり、許可したことを報告する。</p> <p>本日協議していただく議題は、「野田市の学校配置適正化について」である。</p> <p>学校配置適正化については、令和5年10月25日に開催した令和5年度第3回総合教育会議で、福田地区の学校配置適正化で報告をしている。</p> <p>今回の議題である、野田市の学校配置適正化については、市内の児童生徒数の減少に伴って、今後、行政改革大綱の見直しの中で検討が必要となる大きな課題となる。</p> <p>皆様におかれましては、自由な意見交換ができるよう忌憚^{きたん}のない御意見を頂きたい。</p> <p>議題 「野田市の学校配置適正化について」</p>
市 長	説明を求める。
学 校 教 育 課 長	<配付資料に沿って説明>
高 橋 委 員	<p>小中一貫校あるいは義務教育学校、どちらにするにしても適正な学校規模とあるが、その適正な学校規模というのは、小学校は12学級から18学級とあるが、中学校も同じと考えてもよいか。</p>
学 校 教 育 課 長	そのとおりである。
高 橋 委 員	<p>そうすると、今、1学級当たりの標準児童生徒数が変わってきているが、中学校1年生も38人学級なのか。小学校は全学年38人学級になっているのか。その辺りを教えてほしい。</p>
学 校 教 育 課 長	小学校は35人で、中学校については1年生が35人、2年生と

伊藤委員	<p>3年生が今年度は38人である。</p> <p>3校合わせたとき、各学年の小学校6年あるいは中学校3年のトータルは、資料の最後にある12学級とか18学級以下の学校というのは物理的に作れるのか。</p>
学校教育課長	<p>現時点で4校を合わせたと考えた場合、17学級から18学級程度になると想定している。</p>
飯田委員	<p>資料2ページの下の方に、児童生徒数の著しい減少は、社会性やコミュニケーション能力の涵養に支障を来すなど、様々な問題を生じさせるという説明があったが、ということは、資料1ページの表2を見ると、福田地区以外でも、東部地区とか北部地区というのは、同じようになり得るような状況なのか。</p> <p>もう一つは、例えば東部地区とか北部地区から、福田地区同様の意見的なものはあるのか。</p>
学校教育課長	<p>福田地区以外も、適正な規模でない一定の集団規模が確保できない場合は、社会性の涵養などに支障を来すという点では同様なので、福田地区以外についても記載してあるように、市内全体の学校配置適正化という課題を、しっかり議論していく必要があると考えている。</p> <p>また、ほかの地域からの声ですが、福田地区からは申入書という具体的な形で地域の声が市に届けられているが、ほかの地区については、現時点でそのような声は届いていない。</p>
市長	<p>この際、ほかに自由意見を求める。</p>
	<p><ほかに意見なし></p>
市長	<p>閉会を宣言した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>